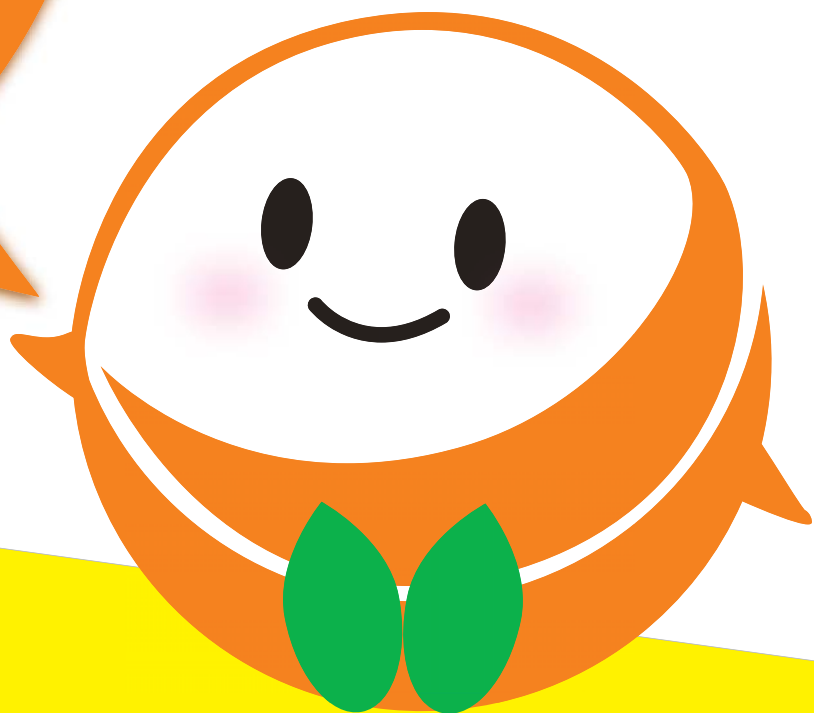


やってみんけん

プロジェクト

クー



やりたい調査
やりたい研究 応援します!!

愛媛大学 学生による
調査・研究プロジェクト

プロジェクト E

学生発の調査・研究プロジェクト プロジェクトE

って
何なん?

はじめて
聞いたん
やけど。

ざっくり言うと、学生が
「やってみたい!」と思う
プロジェクトを
大学が支援して
くれるんよ!

「プロジェクトE」とは、

学生の自発的な発想による調査・研究を、**大学として経費の面から支援**するものです。

毎年15件程度のプロジェクトが支援を受けており、中にはプロジェクトの意義が広く認められ感謝状を授与されたものや、NPO法人として自治体から認定されたものなど **地域社会に大きく貢献したプロジェクト**が多数あります。

愛媛大学には、学生が自ら進んで取り組む活動やプロジェクトを、教職員が責任をもってサポートし学びの機会を提供していく「**準正課教育**」が用意されています。プロジェクトEも準正課教育の取組の一つであり、**教職員による指導と金銭的支援**を受けながら、皆さんの「**やってみたい!**」という想いを**実現**させることができます。また、プロジェクトEを通じた調査・研究の長期的な活動プロセスは、論理的に思考し判断する能力、知識・技術の運用能力といった「**愛大学生コンピテンシー**（愛媛大学学生として期待される能力）」の養成にもつながります。

SEARCH



こんなスキルも
磨かれるハズ!

専門知識

知識・技術の
運用能力

おー!!
やってみよ!

多様な人と
コミュニケーションする能力

論理的に思考し
判断する能力

すごいやん!!
ぼんやり
できんね!

みんな
どんなこと
テーマにしようん？

これまでの
採択プロジェクトを
みてみんな



平成27年度 最優秀賞

平成28年度 最優秀賞

平成30年度 優秀賞

②本プロジェクトの目的



生ゴミから野菜へ繋げる循環システムの構築への挑戦
研究代表者 農学部2年 利根 徹哉さん



山と木と人の暮らしが育む文化遺産～内子町小田の「森林文化」をめぐるサステイナブルツーリズムの可能性～
研究代表者 法学部2年 豊坂 奈巳さん



地域活性につながるロボ教材を用いたプログラミング教育
研究代表者 社会共創学部3年 平子 美優さん

平成28年度 努力賞



学童保育における学習支援ツールの開発
研究代表者 教育学部1年 市本 早香さん

平成29年度 努力賞



AR(拡張現実)技術を用いた愛媛大学ミュージアムARに向けた試作
研究代表者 工学部3年 岡 佑衣さん

平成29年度 努力賞



非一様流体としての宇宙
研究代表者 理学部4年 成田 博貴さん

平成30年度 努力賞



催眠鎮静剤プロモバレル尿素を用いたドラッグ・リポジショニングの新展開
研究代表者 医学部4年 武田 遥奈さん

種目1

学生の
自由で自発的な発想
から行う
調査・研究

高校生を対象としたロボット・プログラミングワークショップ

カエルの後肢は何故前肢よりも先に発生するのか

理学部中だるみ防止プロジェクト

“素数の調べ”素数にリラックス効果はあるのか!?

がん遠隔転移モデルの作成とCLIC2の転移抑制効果の解明

エクステリア作業用掘削器具の開発

マイクログリア起炎症反応におけるグルタミン代謝の影響の検討

“パン大国・柑橘王国”愛媛オリジナルの“花酵母パン”の開発

若者が集まる地方の条件～人口移動分析とヒアリングによる考察～

植物工場の原価計算を通じた地域農業の持続的発展

藍染め伝統文化の次代への継承

愛媛県沿岸に生息するワレカラ類の検索表の作成

笑顔の源、島のたまり場

愛媛県内小学生の科学に対する意識研究



種目2

地域の活性化や
問題解決など
地域に貢献する
調査・研究



CASE 1

SSD80～楽しく幸せに年を重ねよう! プロジェクト

プロジェクト概要

SSD 80 (Senior Song Dance 平均年齢80歳)とは、シニアの方々に地域をPRする歌とダンスを提供し、生きがいを持って楽しく歳をとっていただくことを目的としたプロジェクトです。シニアが主役、私たち若者がサポーターになり、「高齢者の、高齢者による、高齢者のためにもなる地域活性化」につなぐ一つのモデルケースを作りたい、という想いからスタートしました。

平成29年度 最優秀賞受賞

プロジェクト代表

社会共創学部

浅海 咲彩 さん



プロジェクトE応募のキッカケ

1年生の冬頃、他の学生が様々な事にチャレンジしている中、「大学生らしい事は何もしていない、私はこのままでいいのだろうか?」と言う漠然とした不安を抱くようになりました。そんな時、先生にプロジェクトEを紹介してもらったのが応募のキッカケです。



テーマの決定

もともと高齢者問題に関心があった私に、先生が「KGB 84 (小浜島ばあちゃん合唱団)」の事例を紹介してくださいました。「楽しく幸せに歳をとっていいな、愛媛でもやってみたいな」と思い、SSD 80プロジェクトを考案。友人に声をかけたところ、6人のメンバーが集まってくれました。



プロジェクトの実行

プロジェクトが始動してすぐ多くの課題に直面しましたが、メンバーとのミーティングで改善策を検討し、目標を何度も修正しながら、課題を一つ一つ解決していきました。少しずつ高齢者の方々との信頼関係を築いていき、最終的には当初の目標であった「八坂さくら組」の結成、オリジナルソング・ダンスの作成を達成することができました。



プロジェクトの成果と学び

当初の目標は達成できましたが、このプロジェクトを通じてまだまだやりたいことが沢山あったので、松山市NPO「SSDプロジェクト松山」を設立し、取組を継続しました。1年生の頃の自分には、とても考えられないような成果です。プロジェクトEの1年間を通じて、周囲を巻き込む力、行動力、企画力など、社会で活躍するための様々な力を得ることができたからこそ、このような成果をあげることができたのだと思います。



CASE 2

お酢のルーツを探る! プロジェクト



プロジェクト概要

平成30年度 最優秀賞受賞

お酢の伝統的な発酵法は、どのようにして全国に広がっていったのか。酢蔵（お酢屋さん）間での発酵液のやりとりによって、発酵法が広がっていったと考えられていますが、その記録を残している酢蔵は少なく、手がかりは酢蔵に存在する「酢酸菌（微生物）」だけです。この遺伝子を比較することで、お酢作りの伝播経路を知る手がかりを探ることが、プロジェクトの目的です。

プロジェクト代表

農学部

實好 琴葉 さん



プロジェクトE応募のキッカケ

もともと高校1年生の頃から「伝統的なお酢づくり」に興味を持っており、全国の酢蔵さんからお酢を提供してもらい、酢酸菌（微生物）の種類を調べる研究を行っていました。その後愛媛大学に入学し、今まで行ってきた研究をより発展させていきたい、と考えていたところ、先生にプロジェクトEを紹介していただき、応募に至りました。



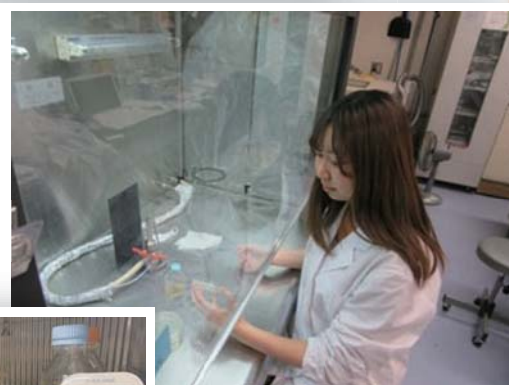
テーマの決定

高校時代の研究を通じて、どの地域のお酢にも共通する菌が存在するを発見したのですが、そこで「お酢作りの伝統的な発酵手法は、どのように広がっていったのか？そのルーツはどこにあるのか？」という新たな疑問を持ちました。この疑問をそのまま研究のテーマとし、研究計画を逆算的に作成しました。



プロジェクトの実行

私はプロジェクトを一人で実施していたので、とにかく実験を繰り返す日々でした。研究室の先輩方に指導していただきながら、全国の酢蔵さんにご提供いただいた沢山の酢酸菌を管理するのは大変でしたが、普段の学生生活では味わえないような、学術的な学びを得ることができ、とても楽しい日々でした。



プロジェクトの成果と学び

最終的に、外部環境が酢酸菌の発酵特性に影響を与えている可能性があることを発見しました。この1年間を通じ、専門知識やレポート作成スキルといった学術的な学びを得るとともに、社会問題をよりリアルに、自分事として捉えるようになったと実感しています。現在は酢蔵の減少問題の解決に貢献できないかと考え、プロジェクトEの研究成果を活用し、後輩たちと協力しながら酢蔵さんと商品開発を行っています。



プロジェクトの進め方

調査・研究
テーマを
決める

おもしろそうなこと
やってみたいことみつけるんよ



まずは自分の関心をもとに「問い」を考えると良いでしょう。どんな小さな疑問もテーマとなり得ますので、自分の関心を具体化し、オリジナリティの溢れるテーマを探しましょう。

なかまといっしょに
ほりさげてみよう！



テーマがある程度決まったら、研究内容を具体化していきます。①目的（なぜ）、②対象（何を）、③手法（どのように）、④到達目標（どこまで）などを検討すると全体像をイメージし易いでしょう。

研究内容を
具体化する

指導教員を
探す・
相談する

ぴったりの先生をみつけるんよ

プロジェクトEの応募には指導教員の承諾が必要です。指導教員は、ゼミ教員以外の先生にお願いすることもできます。



申請書類を
作成する

申請書類は詳しくかくんよ

いずれの書類も具体的に記載するのが望ましいですが、特に「調査・研究計画」は、約8カ月間の具体的な計画を記載するよう心がけましょう。



プロジェクトを
実行する

みんなでやろや



採択されたら、いよいよ調査・研究プロジェクトのスタートです。適宜、指導教員と相談しながら、研究を漸進させましょう。

成果を
まとめる・
発表する

今後役に立つ経験になりそうやね！

約8カ月間の調査・研究の成果を報告書にまとめ、提出します。また、毎年6月頃に実施される成果発表会にてポスター発表・口頭プレゼンテーションを行います。皆さんにとっての集大成です！



プロジェクトEの募集要項や応募書類は、
毎年愛媛大学ホームページに公開されます。
以下のURLもしくはQRコードからご確認ください。

https://www.ehime-u.ac.jp/campus_life/project/

